



千葉県障害者就業・生活支援センター 連絡協議会だより

会長挨拶

平成30年を迎え、今年度もあとわずかとなりました。慣れ親しんだ「平成」の元号も来年の5月までと報道されています。様々なことが大きく変わりゆくことを実感します。

平成30年度から法定雇用率が引き上げられることは周知のことと存じますが、4月には精神障害者の雇用において特例措置を設けるというニュースも飛び込んでまいりました。今後も更なる状況の変化が予想されます。

昨年12月に障害者雇用状況が発表されました。千葉県の障害者雇用率は1.91%で6年連続過去最高を記録しました。また、法定雇用率達成企業の割合は54.5%で多くの事業所において障害者雇用の取り組みが進んでいることが推察できます。しかしながら全国的に見てみると、全体の雇用率は1.97%でまだ開きがある状況です。さらに都道府県別に雇用率を比較すると「東京 1.88%」「愛知 1.89%」次いで「千葉 1.91%」となり、全国ワースト3位になります。これまでも言われてきているように、東京に本社を置く企業が多く、実際に働いている障害者が都内でカウントされるなどの事情も含まれますが、同じく東京に隣接する埼玉県雇用率は2.01%となっており、今後も更なる雇用支援が必要な状況であるといえます。

千葉県では、障害者就業・生活支援センター(以下、中ポツセンター)受託法人すべてに企業支援員が配置されており、今後は更にニーズが高まることが予想されます。平成29年度より広域企業支援員を新たに配置し、企業支援員のネットワーク化を図り、支援の充実に向けた取り組みを実施するという、他県には無い雇用支援の仕組みとして、今後は更に有効活用し雇用支援を進めていきます。

障害福祉においては、就労継続支援事業A型の在り方について指針が示され、全国で多くの事業所が閉所し失業者が溢れました。千葉県においても船橋市で余波を受けて失業した方々の支援が課題になりました。現存する多くのA型事業所がその在り方を問われている状況で、今後も注視していかなければならない問題だと考えます。また、障害福祉サービス事業所においては報酬改定が控えています。更には「就労定着支援事業」のスタートを迎え、中ポツセンターとして連携を図る上で、今後の事業運営の在り方などについて把握していくことが必要になります。

このような状況を踏まえ、当連絡協議会としては、関係各機関との連携を更に密にしていきたいと考えます。千葉県から受託している「障害者就労促進チャレンジ事業」「精神障害者等向け実践能力習得訓練コースの委託先機関開拓業務」の更なる活用により、企業の障害者雇用促進を図ります。また、年2回開催しているスタッフ研修会を通して支援スキルの向上や最新の情報共有を図ります。今後も当連絡協議会を通して、中ポツセンター及び関係機関とのネットワークを強化していきます。昨年11月には、このような千葉県の取り組みを知りたいとの要請を受けて、当連絡協議会から新潟県にスタッフを派遣しました。また、これまで東京都内で開催されてきた「障害者就業・生活支援センター事業をより深く考えるための全国フォーラム」(全国就業支援ネットワーク主催)を千葉県で開催することとし、更にこれまでは1日での開催であったフォーラムを2日間の開催としました。当連絡協議会は積極的に全国の中ポツセンターのネットワーク化に努めてまいります。

このように変化し続ける障害者就業・雇用において、当連絡協議会としての役割をしっかりと検証し、現在のネットワークを更に強化することにより、千葉県内の障害者の就労支援ならびに雇用支援に寄与するよう努めてまいります。今後とも皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

会長 千葉障害者キャリアセンター 藤尾健二

全国の中ポツセンター職員必見!?今話題の在職者交流会とは?

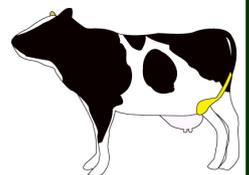
在職者交流会とは、各中ポツセンターに登録している在職中の方を対象に年数回、仕事の悩みや問題解決に向けた話しを皆でする事で「**また明日から頑張っていっちゃい!**」と鼓舞する場です。

そんな交流会の中でも、当事者に人気のあった交流会についてアンケートをとりました。各センター、工夫や地域性を活かしたテーマが多くみられました。その中でも今回は活動的な企画を中心に【**アクティブ編**】としてご紹介します。

日帰り旅行 一人気NO.1!!

なんといっても一番人気は、日帰り旅行でした。「バスツアー」「工場見学」「地元の農園に協力をいただいてのフルーツ狩り」「温泉」等々……講座で学んだ『集団行動中のルール・マナー・金銭管理等を実践する場』として企画しているセンターが多かったようです。

- BBQ大会(10人くらいのグループ分けをして実施)
- 牧場体験(住んでいる地域での産業体験。乳しぼり体験やバター作り。)
- 室内で身体を使った運動(チーム対抗の運動会、生活に活かせる運動等)
- 郷土博物館へ見学
- 特例子会社への見学(見学後は、レストランでの会食等)



※次回は、【お勉強編】の予定。乞うご期待!

多様化する現代で中ポツセンターに求められる支援とは？

～南関東ブロック経験交流会議報告～

11月17日（金）障害者就業・生活支援センター南関東ブロック経験交流会議が山梨県甲府市で開催されました。この会議は、ブロック（全国10ブロックに分割）ごとに毎年開催されており「南関東ブロック」は、千葉、東京、神奈川、長野、山梨の1都4県で構成されています。当日は、約90名が集まりました。

厚生労働省職業安定局の仙田亮氏より、中ポツセンター事業の活動実績の説明があり、平成30年度の概算要求のポイントとして、地域の支援機関の中心であるセンターのネットワーク機能を拡充し、特に支援対象者の増加が他の障害種より高く、職場定着に困難を抱える精神障害者の就労・定着支援の強化を図るため、①精神障害者の職場定着支援事業の実施 ②①事業実施に係る精神支援担当者の配置 ③移動相談による地域の支援体制の強化及び支援の実施があげられました。

また、公益財団法人住吉偕成会住吉病院院長の中谷真樹氏より「精神障害者の就業支援について」と題し基調講演がありました。精神障害者の定着率の強化が求められる中、医師から病気の治療や症状、薬の副作用等の専門的なお話を聞くことができ、精神障害者の就労支援において医療との連携が重要であることを再認識いたしました。

グループ別意見交換会は、各テーマに分かれ活発な意見交換、地域の課題等が話し合われました。最後に6グループからの発表となり、6グループ中5グループの発表者は、私たち千葉県の中ポツセンターであり、千葉県の積極的な行動力をアピールする場にもなりました。

中ポツセンター事業は、千葉県内でさえ地域色が強くありますが、県によってさらにカラーは違い、様々な取り組みが行われていることを改めて感じました。少し遠かったのですが、雄大な富士山と白根三山を背に、信玄餅をお土産に帰途につきました。

障害者就業・生活支援センター山武ブリオ 高木由佳

備えあれば憂いなし **STOP!** 交通事故



先日めずらしく妻から頼まれ物の買い物に出たときのことでした。車のナンバーで呼び出しの放送があったので確認に行くと、思っていたとおりの車がそこにありました。高齢者の方が操作ミスで私の車にぶつけてしまったとのことでした。実は私は約3、4年ごとに「当たり年」が来るようで、4年前は前方不注意の車が正面からぶつかり廃車、その3年前は信号待ちで急に前の車がバックしてぶつかり、さらにその3年前は一旦停止せずに飛び出した車が衝突。（しかしこれまで怪我は一切ありません！）車以外には何一つ当たったことはないのですが、その度にいつも「自分も注意しなければいけないな」と思うようにしています。

交通事故に関しては全国的に年々減少傾向にあるようです。千葉県は非常に死亡事故が多い県として有名ですが、今年は12月現在では全国で第6位。前年度の第2位と比べればと思いますが、まだまだ事故の多さは非常に目立ちます。（ちなみに12月14日現在で交通事故件数16,873件、死亡者数は144名、負傷者は20,719名）また、事故の原因の多くは脇見運転や運転操作、安全確認といった「安全運転義務違反」といわれるものです。

自動車というものは仕事や日常生活になくてはならない物で、非常に身近な移動手段になっています。今は安全機能が付いているものが増えてきましたが、常に運転者は注意を心掛けなくてはなりません。「安全運転義務違反」は運転者の「不注意」から起きるものです。言い換えれば、注意をしていれば事故が起こりにくいということでもあります。

今年はテレビでも話題になりました「悪質運転」の影響で、ドライブレコーダーが非常に売れた様です。しかし、何かあった時もそうですが、何かある前のことも常に意識しなければなりません。余裕をもって安全に、譲り合いの気持ちで運転を心がけたいものです。備えの前も大切です。

障害者就業・生活支援センター中里 近藤大介

とある古川さんの…つばやき

以前、知的障害のある方々と農作業を通じて、土を作ったり作物を育てる大変さや、収穫時に出来た野菜を食して喜んだり・悔しがったり、買ってもらった時や褒めてくれた時の喜びがモチベーションとなって一緒に活動していた時代がありました。

そんな喜怒哀楽ある作業を主として活動している企業も増えてきましたが、まだ良い話を聞くことは少ないです。人材不足が深刻な時代に障害者雇用率の上昇で様々なビジネスモデルが出てくるのは当然の流れ。でも、いつもしわ寄せは障害を持っている方になりがちです。

資質向上に向けて支援者自身も含め、企業への啓発として学校・中ポツセンター・就労移行支援・就労定着支援に携わる支援者の力量が更に問われてきます。

大久保学園 ～形にこだわらず！フットワーク良く!!～



大久保学園障害者就業・生活支援センターは平成21年11月に開所し、今年で8年目を迎えました。当センターはふなばしアンデルセン公園にもほど近い船橋市の北部に位置し、船橋市在住の方を対象としております。船橋市は人口63万人と中核都市の中でもトップクラスの人口を抱え、市内だけで就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所はそれぞれ10か所、就労継続支援B型事業所も26ヶ所と社会資源が豊富にあるのが特徴です。その中でご本人のニーズに合った事業所へのご紹介等もさせて頂いております。また、交通に関しても利便性の高い地域の為、都内で就労されている登録者の方も多くいるのが特徴です。当センターは来所して頂く形にはこだわらず、フットワーク良く相手先に出向く様にもしています。

年々登録者数も増加している事に加え、相談内容や障害種の多様化による1つのケースにあたる支援時間も長期化しているのが現状です。そこで近年は当センターだけで抱えるのではなく、様々な関係機関との連携を重視しています。ハローワーク船橋に協力を得て月1回の出張相談に加え必要であれば登録を行っており、その後の支援においても密に連携を取りつつ行なっています。また、地域の特別支援学校とは在学中の実習時の同行や卒業後学校から当センターへ支援を移行する準備期間として概ね3年から5年をかけて進路指導の先生と職場への訪問を行い、徐々に主体となる支援を当センターに移行しています。当法人内でも相談支援事業所や就労移行支援事業所、就労継続支援B型事業所を展開している為、相談支援専門員とのケースの共有による生活面の支援強化や、就労系事業所とは2ヶ月に1度の定例会を実施して情報共有をしています。



大好評の企画 第二弾！ぶらり中ポツの旅

ピア宮敷 気候も連携も温かみを帯びた距離感近い支援が特徴

ピア宮敷は平成27年度に中ポツセンター事業をスタートし、3年目を迎えました。黒潮の影響で比較的温暖な気候と、“いすみ鉄道”や“港の朝市”などが脚光を浴びる外房夷隅圏域（いすみ市、勝浦市、大多喜町、御宿町）に在住の方を対象として活動をし、県内16か所あるセンターでも圏域人口、登録者数ともに1番少ないセンターでもあります。地域の状況としては、農業や水産加工が主産業の地区であり、一般向けの求人も少なく体力に自身の無い方が働ける場所も限られています。障害を持つ方々が地域で自立して生活していくための支援機関や就労訓練事業所の少なさも地域特徴ではありますが、逆に顔の見える関係性・距離感であるため、関係機関同士の密な連携が取れることも特長でもあります。特に本人のみならず家族を巻き込んだ生活環境の改善が必要になるケース等が多いため、関係機関で協力し合って支援しています。

昨年度から各市町と協力しながら、「障害者雇用に関する企業向けセミナー」を開催しています。ハローワーク、職業センターからの講師の話だけではなく、実際に障害者雇用を行っている企業での社内受入れ体制作りから実際の就労後について、①雇用に関する窓口担当者②各部門との調整役として業務切り出しをする担当者③現場での指導担当者、各部門毎での目線で良かった点、難しかった点について、話しをしてもらっています。昨年度は20社40名の参加があり、今年度も1月19日に開催。セミナー以外にも近隣圏域にあるA型事業所と協力し、A型事業所体験見学・意見交換を行っています。企業担当者には、作業体験や職員の話を書くことにより障害者雇用のイメージや知識を深めてもらい、事業所に通う人達にも企業担当者の生の声を聞くことで一般企業への就職に対する意識を高めてもらう目的があります。就職の支援だけでなく、働く本人達の社会的自立や就労意欲へのきっかけ作りとして事業所体験見学などを地域特長である顔の見える各関係機関と連携しながら、少しずつではありますが障害者雇用の種まきを継続して行っています。



当連絡協議会の ノウハウを全国へ！ 新潟県中ポツセンター連絡協議会へ参加



11月24日(金)の午後から、新潟県長岡市にあるアオーレ長岡を会場に、新潟県中ポツセンター連絡協議会が開催されました。その席上に当連絡協議会から、ビックハートの古川、キャリアセンターの向日、あかね園の國島の3名が参加し、当連絡協議会の取り組みについて紹介しました。

当日は新潟に向かう新幹線で東京駅を出発しましたが、朝から快晴だった空が三国峠のトンネルを抜けた途端、窓ガラスをみぞれ混じりの雨粒がバラバラと叩きつける天気急変に驚かされました。

新潟県では7つの障害保健福祉圏域に1ヶ所ずつの中ポツセンターが配置され、今回は連絡協議会が設置されてから初めての全体会ということで、ほぼ全ての中ポツセンター職員が参加となり、総勢40名程度の会となりました。

当連絡協議会の取り組み内容を説明させていただいた中で、特に関心を示されていたのは、今後の協議会活動に必要な活動資金の捻出方法や活動運営についてでした。

また、どのセンターも500名から1,000名程度の登録者を抱え、年々右肩上がりが増え続ける登録者の人数をどうやって抑えていくかの苦労は千葉と全く同じ状況でした。

全大会終了後の懇親会では、スタッフの方一人ひとりと個別の話題も交えながら、より一層突っ込んだ話をすることができました。新潟県は清純な水と上手い米が取れる地域だけに、地元の銘酒についてのうんちくもあれこれと聞きながら杯を重ね、気が付けば千葉の3名はかなり足元が覚束なくなっていました。何とか無事に当連絡協議会の代表の役回りを終えて翌日帰途につきました。

制度施策部会 國島弘

担当圏域	名称	電話番号
千葉市	千葉障害者キャリアセンター	043-204-2385
船橋市	大久保学園	047-457-7380
市川市・浦安市	いちされん	047-300-8630
習志野市・八千代市・鎌ヶ谷市	あかね園	047-452-2718
松戸市・流山市・我孫子市	ビック・ハート松戸	047-343-8855
柏市	ビック・ハート柏	04-7168-3003
野田市	はーとふる	04-7124-0124
成田市・佐倉市・四街道市・八街市 富里市・印西市・白井市・印旛郡	就職するなら明朗塾	043-235-7350
香取市・香取郡	香取就業センター	0478-79-6923
銚子市・旭市・匝瑳市	東総就業センター	0479-60-0211
東金市・山武市・大網白里市・山武郡	山武ブリオ	0475-77-6511
茂原市・長生郡	長生ブリオ	0475-44-4646
勝浦市・いすみ市・夷隅郡	ピア宮敷	0470-87-5201
館山市・鴨川市・南房総市・安房郡	中里	0470-20-7188
木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市	エール	0438-42-1201
市原市	ふる里学舎地域生活支援センター	0436-36-7762



編集後記・広報部会より

記事にも書きましたが先日の事故の翌日です。この日も珍しく家族にスイーツでもと思い買い物を終え戻ると、なんと代車の側面に車の扉が当たったであろうへこみ。隣にあった車はもうありません。今年は本当に大当たりです。安心、安全、ゆずりあい、さらに正直な心も必要です。皆さんも車の運転は十分に注意してください。

広報部会長 近藤大介

事務局

千葉県障害者就業・生活支援センター
連絡協議会

障害者就業・生活支援センター
ふる里学舎地域生活支援センター
千葉県市原市今富1110-1

電話：0436-36-7762

FAX：0436-36-7612

E-mail：fgakusya-shien@abelia.ocn.ne.jp

ホームページ：

<http://www.chiba-centerw.com/>